



気になるあいつ
わかぎゑふ

双葉社

大人のおやつ

芝居の脚本を書き、稽古に入って演出をし、本番を迎えるまでの生活は時間との戦いだ。とくに脚本家は世界中のことに精通してると思われているが、そんなわけがない。時間のないまま調べものの山に埋もれて書いてる時「ああ、あと一年調べる時間があつたら」「なんで高校時代にこういうことを教えなかつたんだ？」と嘆くハメになる。

そんな時間と闘ってる最中に必要なのはエネルギー補給である。私の場合は元々がそんなに食べなくても生きてるので、ついその時間を惜しむことになる。中にはどんな時でも食事はきちんととらないと書けな

いという人もいるが、私は食べるといふ行為が邪魔になることさえある。それでも一日に一食はまともに食べるようになったのは結婚したからだろう。うちの旦那が風邪をひいていて熱があつてもちゃんと食事するタイプなので、私が食べずに書いてるのが心配だそう。というか、どうも自分がイライラするらしく「晩ご飯は食べに行こう」と書いてるところにやってくる。

そんな事で夕食は人並みにとる。当然だがそうなるとビールくらい…と気持が大きくなりつい一杯飲んでしまう。

問題はここからだ。私はそうなると一旦眠って、2時間くらいするとまた起きてきて書くといふ行動が簡単に出来るタイプなのである。どうやら普通の人は飲んでメシ食ったあとで寝てしまったら原稿を書くといふ行為には戻ってこれないようだが、私は小学校の頃からこのちよつとづつ寝るといふ得意技のおかげで、夜中にもう一度仕切り直して何かをする事が出来るのである。

実は今日も旦那とお好み焼き屋へ行つて、帰つて来てちよつと寝てから書いている。劇団の公演があしたから九州へ移動してあるので、今のうちに今週分の原稿を書いておかないと困るからだ。

夜中にパシコンに向かつて原稿を打ち込み、そのまま朝になるというケースがほとんどだ。まして脚本になるとこれは何日も続く。ちよつと書いては食つて、寝て。また起きて書いては寝て。よく一日を人一倍使つて働くイメージの人がいるが、私はその点でいうと反対に一日を何日にも小分けして使つてる感じだ。

で、ともかくそういう生活をしてると必ず朝に「さあ、一段落つけて寝よう」というタイミングがやってくる。冷蔵庫の傍に座り込みビールを片手に「ああ、よく働いたあ」と思う時、必要なのはお酒のお供にちよつとつまむもの「アテ」である。

今回の写真は私が今一番凝つてる、朝ビールに一番あうアテだ。「ハ

「ベスト」通称セサミというお菓子で昔からある薄焼きのクッキーである。これが塩味と甘みがほどよく絡み、しかもゴマの風味が香り、薄くて下の上でサクッと溶けるなんともいえないほど気分のいいお菓子なのだ。普通の時間ならけっしてアテにはならないが、朝だからこそ存在感を發揮するという魔法のような一枚でもある。

今日はこの気になる朝ビールのアテを食うまで仕事だ！　と思う時、私はちよつと幸せになる。なんというのか……子供の頃におやつらしいものを食べる習慣がなかったの、今ごろそれが時も時間帯もズレてやってきた感じだ。大人のおやつというところだろうか。

リリパットアーミーⅡ 第41回公演

『ちやちやちや』～ある洋服職人の物語～

詳しくは玉造小劇店ホームページへ。

↑クリック↑

【著者略歴】

わかぎさるふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より作家・中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーⅡ」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇店」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっこのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『イブの抜け穴』『大阪弁の詰め合わせ』など多数。
